

# 秩父今宮神社崇敬会(仮称)

## 「会報」第三号

平成二十年一月一日

### 平成十九年・例大祭を斎行

#### 「神仏習合」を主題に講演も

講師は花園神社宮司・片山師

高麗神社宮司・高麗師も参列

平成十九年の例大祭が昨年九月二十八日、崇敬者多数が参列して執り行なわれました。今回は、平成神道研究会などを主宰する東京・花園神社宮司の片山文彦師(元・東京女子医大講師)、日高市・高麗神社宮司の高麗文康師なども列席されました。本殿御前での祭典に続き、講演会も開かれ、片山師の「神道から見た神仏習合」と題した講義を拝聴しました。

秋晴れのもと、厳かに斎行された祭典では、まず祭主・祭員が入場して大前に一拝。続いて修祓、献饌、祝詞奏上、杉本昌子権禰宜による「豊栄の舞」の奉納などがありました。そして、

参列者全員が玉串を捧げ、報恩感謝とともに、今後の安寧・隆昌を祈念しました。続いて感謝状の贈呈に移り、長年にわたって神社に崇敬を寄せた小山市の高見良平・キヌ子御夫妻、江戸川区の稲生喜久子さんに、塩谷治子宮司から記念品が贈られました。



豊栄の舞を奉納する杉本権禰宜

祭典修了にあたり塩谷宮司は「神仏習合」という日本人の素晴らしい精神に気づかれる方々が最近が増えております。当社では先がけて、二、三十年前からその精神でやってきたつもりですが、それが実を結びつつあるような気がいたします。本日は片山先生、高麗先生にも御参列をいただき、生涯忘れない例大祭になったと感激しております」と挨拶しました。

このあと、一同は長瀨町の養浩亭に移動し、講演会と直会に臨みました。

#### 神道と仏教——常民の生活

でそれぞれが担った役割を探る

神仏習合の観念は古代からあった

講演で片山師

開会冒頭、塩谷崇之禰宜が挨拶し、「秋風に龍神様の気持ちよい息吹を感じながら祭典にご奉仕できました。これからお話いただく片山先生は、宮司も私も色々と教えを請うた先生です。また日頃、親しくさせていただいている高麗宮司さんにもお越しいただきました。皆様とともに素晴らしい話を伺い、心に止

めるところがあればと期待しております」と述べました。登壇した片山師はまず、主宰する神職有志の「平成神道研究会」について紹介し、塩谷宮司も早くからのメンバーであること、その塩谷宮司は長く「神仏習合」思想を体現して神社活動をしていること——などを披露しました。

続いて同師は、日本と西欧の神観念の相違について話し、互いの文化圏の発想を理解すること、互いの思い込みを避けることとがいかに難しいかを説明しました。そして、「日本人は近代になって突然、自然科学に出会ったので、それをもとから科学的だと思いついてる。しかし本当は錬金術とか占星術など、科学的とは言えない土台や歴史を経てきている。また、一神教的なものの発想、考え方もなかなか飲み込めないし、面食らう」と話しました。

さらに両者の神認識や自然観について、「我々は自然の中に神や霊を感じ、親近感とともに畏怖の念も持つ。死後に靈魂となつて神様になるという祖霊信仰もある。だから我々は『自然に学ぶ』。一方、西欧では、一神教的な神は創造主であり、ま

ず人間を造り、自然を造った。だから『自然を学ぶ』。どこまでも切り刻んで、科学の真理を探究する」と付け加えました。

同師は、神道と仏教が歴史的に生活に果たしてきた、それぞれの意義や役割についても言及しました。「常民の生活は、毎日が農作業で村社会だった。一緒に豊作を祈り、感謝をした。

だが、人間は人生において強烈な不条理にも出会う。そんな時、神道的な村社会のなかで徐々に癒やされるが、癒やしきれないところを仏教が補ってきた面もある」と解釈を示しました。

神仏習合に関しては、平安末から鎌倉にかけて顕著になるものの、実際にはそれ以前の、



講演する片山宮司

聖徳太子の「和」の精神や、藤原武智麻呂の神宮寺建立などに習合観念は見られるとしました。

そして最後に、歴史的に見ると、神道にも仏教にも、海外の宗教にも、現代のイメージでは理解できない状況や現象があるとして、偏見を除いた見方で理解する重要性を強調しました。

### 定期研修会が発会

#### 第一回は「修験道入門」

#### 日光修験の法頭・

#### 伊矢野師を講師に

#### 「行者堂」宝前で採灯護摩供も

崇敬者の有志による企画、「定期研修会」の第一回が昨年十月二十八日午後、長瀨町の養浩亭を会場に開かれました。予想を上回る約百人が参加しました。

テーマは「修験道入門」。日光修験道の法頭、伊矢野慈峰師が講師を務めました。会に先立ち午前には、神社境内で伊矢野師を導師に採灯護摩供を修め、各人の願いを込めた護摩木を焚いて所願成就を願いました。

今会は「崇敬者同士、互いに研鑽し、交流する場を持つ」との声が高まり、実現したものです。第一回講師として、行者

採灯護摩



堂宝前で護摩供を奉修されたことのある伊矢野師に依頼、快諾を得ました。そして、研修会の隆昌を願う採灯護摩供も実現しました。

◆ ◆ ◆  
当日は前夜の暴風雨も去って爽やかな秋晴れ。行者堂の宝前には結界が張られ、護摩壇が組み立てられました。まず導師、山伏、神職が龍神木を拝礼して入場し、山伏問答、法剣作法などが修められました。

続いて導師が願文を奉読。修験道の開祖、役行者以来の法威を讃嘆し、神仏習合の靈威、国土安穩の利益を称えました。やがて点火された護摩壇から炎が上がる、護摩木が次々と投げ

込まれていきました。  
参加者は、塩谷宮司から「皆様の弥栄をご祈念申し上げます」と挨拶を受け、奉修後には一人ひとり、山伏から御札を授与されました。

#### 「修験道——山中の行で験を修め、世人の苦悩を救う」

「内証あってこそ教えもある」

「本源的な智慧を離れないことが大事」

#### 伊矢野師が修験道を語る

護摩供の円成後、研修会場に移った参加者は、直会に続いて伊矢野師の講義に臨みました。

同師は、山伏・修験という言葉の由来、役行者の生涯、本山派(天台系)と当山派(真言系)などそれぞれの修験の特質、そして山伏装束や入峰修行、十界修行、法流などについて、概要を語っていききました。

まず修験については、「山中で行をして神仏の力をいただく。悟りの験を修め、人々の悩みや苦しみを救う。だから、山伏は神主か坊さんかと問われれば、両方だと言え」と話しました。そして、「相応という言葉がある。修験は人々に応じて変容し、受け入れられるように

してきた」と述べて、その柔軟な要素も強調しました。

また、護摩供を務めた山伏をモデルに装束の一つ一つを解説。頭巾(ときん)は山中でコップになるとともに十二の襷(ひだ)が十二因縁を表すこと、梵天袈裟の六つの房は菩薩修行の六波羅蜜を示すこと——などを示し、「修験の装束や格好は、一切の目的や教えに適っている」と説明しました。

修験道が《古来の信仰に外来宗教が加わってできた宗教》と解説されることに対して同師は、「私はそうは思わない。古代からの意識、精神であり、それを外来の宗教観念で表現したのであって、たんに何かと何かがあ



装束説明する伊矢野師

っ付いてできたのとは少し違う」と見解を述べました。

そして最後には、「内証があつて教えがある。その内証、境地を役行者は教えとして表した。そこには内面的、本源的な智慧がある。煩惱はあるけれど、常に智慧から離れないのが大事。そこに修験の境涯がある」と語り、その極意を示すものとして《雲晴れてのちの光とと思うなよ もとより空に有明の月》の和歌を添えました。

閉会では塩谷崇之禰宜が「この定期研修会が神仏や修験など、皆で議論したり、調べたり、様々なことのきっかけになれば。また、昨夜は嵐の中で多くの方々、昨夜は嵐の中で多くの方々、護摩壇を組み、準備くださった。感謝の心で会を締め括りました」と挨拶しました。

なお、ご承知のように当神社は、かつて社寺を総合して長岳山今宮坊といひ、当地方の一大修験道場でした。本山修験宗の総本山・聖護院の主要直末となつた頃には、武蔵国一帯の本山派に属する山伏や坊を束ねる「年行事職(ねんぎようじしき)」という要職も務めるなど、修験道とは切り離せない由縁をもつ今宮神社であります。

### 塩谷宮司らがパネリストに 神道時事問題研の40周年シンポ

#### 「我が社の神仏習合」で

伊勢の猿田彦神社を会場に

三月二十二日開催

花園神社の片山文彦宮司(東京・新宿)と氷川神社の山本雅道宮司(東京・高円寺)が幹事を務める「神道時事問題研究会」が四十周年を迎え、「記念シンポジウム」と銘打った月例研究会(第四九五回)が三月二十二日、三重県伊勢市の猿田彦神社で開かれます。十四時から十七時。テーマは「自然を支える文明」。安田喜憲・国際日本文化研究センター教授が基調講演を行ないます。また年間テーマが「神仏習合」であることから、講演に続いてシンポジウム「我が社の神仏習合」が催されます。このシンポに当神社の塩谷治子宮司が招聘され、パネリストを務めることになりました。ほか八海山尊神社の山田泰利宮司(新潟)、猿田彦神社の宇治土公貞明宮司。司会は山本宮司です。やはり片山、山本の両宮司が代表の神職の会「平成神道研究会(平成会)」も今年で二十周年を迎えており、塩谷宮司はそ

の古くからのメンバーとしても活動しています。

塩谷宮司はこの「平成会」について、「粹にとられず、将来を見越して活動する全国の神職が結集している」とし、隔月の研修会には万難を排して参加しているといいます。ちなみに当神社の塩谷崇之禰宜、西沢形一神主もメンバーです。

今回、「時事問題研究会」のパネリストに選任されたことについて塩谷宮司は、「『平成会』自体もそうですが、私も環境問題のこと、世界平和のことを念頭に、神職として鋭意、努力し、活動してきたつもりです。神仏習合の思想の重要性を日頃から申し上げてきたことも、皆さまにお認めいただいたのでしよう」と話しています。

古くから境内に寺院・神社・諸堂を擁して今宮坊と総称された現在の今宮神社。信仰の形で分け隔てることなく、世の安寧と、人々の幸せを願う気持ちを素朴に伝える「神仏習合」の精神を、塩谷宮司がパネリストとしてどう発言するか。期待の持たれるシンポジウムです。

シンポ参加希望者は直接、花園神社社務所へ。同神社の申し込み・問い合わせFAXは〇三(三三〇九)五六四五。

## 今宮トピックス

神社のニュース・  
出来事を  
ご紹介します

### 立春祭のご案内

二月四日午前十一時から立春祭を斎行いたします。参列は随意です。

### 聖護院や石清水八幡を参拝 塩谷宮司

塩谷宮司は昨年十一月二十六日、本山修験宗総本山・聖護院(京都)を参拝し、先ごろ同院門主に就任された宮城泰年師と懇談しました。宮城門主が同院の執事長だった頃から厚誼をいただいているため、宮司は門主就任のお祝いを申し上げ、神社の近況や今後の活動についてもお話ししました。御門主からは、今春の晋山式への参列のお誘い

が非公式ながらありました。

同宮司はその前日の二十五日には、石清水八幡宮(京都)を正式参拝しました。田中恆清宮司は神社本庁副総長の要職にてご不在ながら、西中道禰宜が丁寧に応接してくださいました。塩谷宮司は、同八幡宮が社寺一丸となった行事を伝承し、また、社寺による神仏協同の事業を企図されるなど、その活動にかねてより敬意と関心を示し、訪問を念願していたそうです。

### 「池の水は伏流水」 市のHPにも正確な記載

さきごろ、「龍神池の水は水道水だ」という心無い方による誤認の言葉を聞いて困惑した崇敬者が社務所に相談にいられました。社務所で秩父市に相談したところ、学術的にも池の水は武甲山の伏流水であることから、市でも善処を確約くださいました。そしてご好意により、市のホームページで伏流水であることを示す記事を載せていただきました。秩父市は現在、自然保護、環境問題に積極的に取り組んでおられるところです。

### 『神代の女神』を出版 福岡の原さん

崇敬者の原千春さん(福岡市)は昨秋、天照大御神を筆頭に六十柱(人)の女神を紹介した『神代の女神』を出版しました。ペンネームは原知遙。発行は福岡市の梓書院です。

複数の会社の社長職を兼務する多忙な原さんですが、合間をぬっては全国の神社を巡り、また歴史書を読むうちに、「ご祭神となつている、あるいは「記紀」に登場する女神の魅力に引き込まれたようです。

「女神のイメージそのものという方もいらつしゃいますが、失恋したり、嫉妬したり、意地悪をしたり、すねたりと、私たち生身の人間とかわらないような方々も結構いらつしゃるのです」(「あとがき」より)。そんな女神様の魅力・プロフィールを、原さんの感性も加えて紹介しており、気持ちのこもった肩の凝らない楽しい本です。

原さんは執筆にあたって当社に祈願し、塩谷宮司から六十人(柱)の女神名を教授されました。当社の大宮売大神も含まれてい

ます。

昨年十一月には福岡県の宗像大社で同本の奉納式典があり、塩谷宮司も招待を受けて参列しました。

なお原さんには、境内にある「偲石」周辺の整備などで多大の篤信をいただいております。

### 小林さんに神社功労賞 秩父のお社と祭り撮り続け

崇敬者の小林良則さん(秩父市)はこのほど、塩谷宮司の推薦により、埼玉県神社庁秩父支部長から功労賞を受賞しました。十年にわたり、秩父地方の神社、祭りを写真に撮り続けて記録した功績によるものです。

小林さんは読売写真クラブに所属。アマチュアながら、腕前はプロ級の写真家です。

当社の祭典でも撮影を続けており、「子供の頃、境内で遊ばせていただいた。悪ガキで迷惑もかけた。前の宮司さん(塩谷太刀雄・前宮司)のありがたさが今になってしみじみ分かる」と、社務所に来てはよく世間話をされています。

## 『自然に生きる』

青年部・白石健一

自然に生きるとは、自然を「活用」して生きること。自然を活用させていただき、生かさせていただくこと。自然を「利用」して生きることではない。

辞書には、「活用」とは物や人の性質・働きが十分に発揮できるように生かして用いうまく使うこと、「利用」とは自分の利益になるように便宜的な手段としてうまく使うこと、とある。活用は、良きも悪きも総合的に全体を用いるのに対して、利用は、その良いところだけを用いる、とも解釈できる。

神社を活用している人にはご利益が得られるが、利用している人には何の効き目もない。利用している人は、薬を飲むように、その効き目だけを求めて、あの神社この神社と回っているだけなので、ご利益はなかなか顕れない。

一方、活用している人はその効果だけを求めているのではなく、全体的な良い雰囲気を感じながら英気をいただいているので意外と早くご利益がある。ま

た、何かあることに感謝をしているので効き目が顕れやすい。

「私だってご利益があれば神社に恩返しくらいするわよ、その人だって、恩に報いているのは、ご利益があったからでしょ」と言うかも知れないが、ご利益のある人とならない人では、普段から行動が違う。利だけ求めている人には何時までたっても効き目は顕れないことになる。

何でも活用のできる人とは、心の目の開いた人。心の目で物事を見ている人には、心の目に映るものが見える。神様が見えない人は科学的な証明を求めないので、神様が見えることはない。心の目に映るものは心の持つイメージであり、ひとそれぞれに違っているもので、例えば神様はこういう形のものだと断定できないし、証明もできない。

人は小説を読んでいるとき、想像やイメージをめぐらせている。ところがその小説が映画やTVで映像となったとき、持っていたイメージや人物像や風景と違って、がっかりするところがある。映像は両目で見たもので、イメージの中にあるものが心の目で見たもの。心の目の開いた人は、特別な人ではない。

心には耳もある。心の耳で聞かない人は骨格や要点のみを聞いて分かった振りをする。人の話を聞くということは、心の目と耳で聞くことだと思ふ。そこには神様がいたり、天の声があったりする。

好きな言葉に「自処超然、人処藹然、有事斬然、無事澄然、得意暗澹、失意泰然」という六然(りくぜん)がある。思うに「自然」とは初めの「自」と終りの「然」を取ったもの。「自分には一切とらわれずに脱しきって、人に対してはいつも和やかな好意を持ち、何か事があれば活気に充ち、事が無ければ水のように澄んでおり、得意のときはあつさりして、失意のときもゆったりしておる」という状態を指すものではないか、と。

自然は人間には作れない。でも人間は自然の一部になれる。水はあまりにも身近にありすぎて、知っているつもりで、じつは誰も知らない。H<sub>2</sub>Oと化学記号にあるけれど、誰も酸素一つに水素二つが付いた状態を見たものはない。だから水の神祕を考えて、改めて水を捉えてみる必要があると、教えていただいた。そのとき、「自然回帰水」という水を紹介していただ

いたが、その愛用者のテーマは「人は人によって活かされている。人間は自然によって生かされている。その感謝の気持ちが生かされたとき、相手の心を理解でき、地球の心も理解できる。地球に愛を、人生に成功を」というものだった。

水の大切さを考えさせられながら秩父を巡っていると、水の神様である今宮神社にご縁させていただいた。改めてご縁の大切さを思い知らされている。

高校のとき、延暦寺のお坊さんから「一隅を照らす人生」という言葉をいただき、それはどんなことなのだろうと心の片隅に思いながら歩いてきた。海外での生活で、日本の自然のありがたさを感じさせていただいた。一方で、海外で日本のために森林が伐採されていることも知ることになり、今は、せめてもの気持ちから「マイ箸」を持ち歩いている。たった一人かもしれないが、一人が百人に、千人に、もっと多くなつたときに大きな力になる。ああ、これが一隅を照らす人生なのだ、と。

不思議な縁が必然と感ぜられたときに、自然に感謝できるのだと思つているところである。

## 武甲山登拝行に参加して

青年部・影山一弥

十一月十八日(昨年)に今宮神社崇敬会青年部による武甲山登拝行が行なわれた。幸いにも、前日の雨にも関わらず晴天に恵まれ、神仏に歓迎されたかのようには思えた。仲間に登山口まで車で送ってもらい、入山口である一の鳥居で一礼した。

十一月にもなるとさすがに寒い。登山者も少ないと思ったが、意外にも多かった。一番驚いたのは、八十歳のおばあちゃんに出会ったことだ。若者にも負けず、足腰も丈夫で、歩くのが速い。「先に行くよ」と追い越されてしまった。

しばらくすると、湧き水が出ているポイントで休憩した。仲間と水を飲んで喉を潤したとき、私は思った。「生きています」。水を口にしたからこそ、生きています。いや、「生かされている」のだと。現代社会において、水は当たり前のように存在する。その一例がコンビニだ。お金さえ払えば、ジュースなり、お茶なり、買うことができる。当たり前だが、水が無ければ存在し

ない。まして山が無ければ、尚更、無理である。無意識に自然の恩恵を授かっていて、気付かないのが罪にも感じた。

山頂に到着して御岳神社に参拝。無事に到着したことに感謝し、昼食にした。山頂に水洗トイレがあるのに驚いた。仕組みはどうなっているのだろうかと思ったが、タンクに雨水をためて有効活用しているとの事だった。

さあ下山と思いきや、登りよ坂が急で、秋とあって落ち葉も凄いい。杖をつきながら降りたが、足を痛めてしまった。仲間に薬を貰い休憩したが、山に対して少し甘く見すぎてしまったと反省した。

今回の登拝行で得たものは、物凄く大きいものだった。「当たり前前のこと」に気付くということが、どれだけ難しいことか。学校では教えてくれない。山に教えてもらい、体で感じたこと。すばらしい一日を過ごせたことに感謝したい。

### 鍊成登山報告

出仕と若手崇敬者による任意のグループ仮称崇敬会青年部による自主計画の武甲山登山が十

一月十八日「日曜日」に実施されました。教務が提案、青年部の影山君が中心となり、テーマは龍神池の源流である武甲山に「自然の恵みに感謝」。個々の感性を磨こうという趣旨で修験道や山岳信仰に造詣深くエベレスト登山経験を持ち、山岳救助隊にも参加されている、横浜在住の崇敬者、野沢氏に、引率して戴き、無事目的遂行致しました。参加者は、6名でした。

また、ご迷惑を承知の上で、万年青年の野沢氏には青年部のご指導をお願いする事になりました。来年は「徒歩で歩く秩父観音霊場巡礼」を数回に分けて実施する予定です。青年部主催の「鍊成会」はどなたでも参加出来ます。崇敬者の皆様の参加をお待ちしております。問い合わせは教務の西澤神主まで。

### 今宮神社 崇敬会青年部

#### 第一回 秩父観音霊場

##### 「歩き巡礼の旅」のご案内

平成二十年三月十八日から七月十八日まで、秩父札所総開帳が行われます。

当会では六回の予定で、歩き巡礼を行いたいと思います。

第一回は左記の予定です。

(札所一番から九番まで)

日時 平成20年3月23日(日)

集合場所 秩父鉄道 黒谷駅

集合時間 午前9時30分

問合せは影山まで

(〇九〇—一七九五—九五五八)

### 江戸川講

川上秀男

私共は、江戸川区近辺・千葉・埼玉の有志20数名でご奉仕させていただいております。

全員で、ご奉仕と日常生活で以下の3つのことを心掛けております。

- ① 私たちを守ってくれる神様です。神様のお住まいになれる境内は常にきれいにしておきましょう。掃き掃除、草むしりはもちろんのこと、敷き砂利・壊れた施設の補修・整備、不足した備品の補充などを行い、常にきれいですがすがしい境内を保ちましょう。

- ② ご奉仕は自分を清めるスペースである。ただ、ご参拝をするだけで帰ってしまうのはもったいない、機会損失ですね。半日でもいいか

## ③

らご奉仕しましょう。日常なんとなく生活をしていないだろうか。箒一振り・一振り無心の中に自分を省み、反省し、明日からの清らかで活力ある生活を見出せる場ではないでしょうか。龍神様は怖い神様であり、優しい神様です。いつも見えています。人の道に合った生活をしましょう。人間まじめ・一所懸命は当たり前、必死にやっつてはじめて龍神様は後押しをしてくれます。また、わき道にそれないよう引っ張ってください。反対に人をだまし・陥れ・いじめの人には、厳しいお仕置きが待っています。時には死をもって償わなければならぬでしょう。周りを見ても枚挙にいとまがないほどありますね。他力本願(仏教上のことではなく一般的な意味)などこの世にありませんね。何事も必死になつてやりましょう。

りません。顧客を大切に・回りの人を大切に・約束はどんなことがあつても守る。「自分の信用より、相手にいかに喜んでもらえるか。」「必死になつてやればなんでもできる。」これも龍神様の教えだと思います。江戸川講の仲間も一人一人、龍神様の教えを守り、パワフルな人になつてきております。

## お知らせ

## 「御奉仕してみませんか」

御神徳により、年々参拝者が増加して参りました。出仕、職員だけでは業務内容が繁多になるので、ご奉仕していただける崇敬者の方々を募集しております。詳細は下記の通りです。週一日または、一日、午前9時30分から午後4時30分ころまで奉仕出来る方、ご奉仕なので、交通費などは自弁となります。

## 「読者の声」募集中

会報の読者の皆様の声をお聞かせ下さい。テーマは信仰体験、世論に感じる事、健康の事など、自由です。今回は川上様、白石

様にお問い合わせしました。参照下さい。

## 「会報協賛者に

## なつてみませんか」

この会報は紙面に協賛者として御芳名を載せられている皆様は浄財にてすべて賄われております。崇敬者の皆様や参拝者の方には無料で配布しております。是非、協賛金のご協力お願い致します。予算の都合で現在は発行部数3000部ですが、初めて来られる参拝者に好評なので、部数を順次増やして行きたいと考えております。

協賛御芳名記載料金は、一枠が基本的には一万円です。御家族、御友人の連名も可能です。営業広告、地図、写真入り、二枠以上の場合、別途でお願いいたします。

## 「「苦勞様でした」

落ち葉の季節も終わり原稿を書いている今日は冬至です。今年も、江戸川講の皆様、久喜グループの皆様、遠藤グループの皆様、枯葉のお掃除、本当にご苦勞様でした。今年も大きなネツト70袋くらいでしたね。軽

トラ4台分はありました。廃棄作業にご尽力いただいた、雨宮植物園様、影森の関田義司様、橋立の土津園様、ご協力有り難う御座いました。

◎十九年度に大祓式に形代を納められた方々には「大祓修符」郵送致しました。

◎厄年祈願受付中  
(二月末日までの土・日は予約不要です。)  
遠方の崇敬者の各位は御祈願して御神札郵送致します。

## 心の生涯学習

## 第70回ニューモラル研究会のご案内

日時 平成20年1月27日(日)

午後1時20分～4時45分

場所 サンライフ練馬3階

講演

「INUKIのJUNJI」

秩父今宮神社宮司

今宮坊二十一世廣泉 塩谷 治子

練馬モラロジー事務所

代表世話人 宮下 修

参加費 500円(資料・茶菓子等)

問合せ 03-3926-1412(宮下)

崇敬会設立準備室からの御報告

会報2号でお知らせいたしました、崇敬会設立につきましては、予想を超える沢山のご意見や激励のお言葉をいただき、感謝しております。中でも御社殿造営についての御質問が数多く皆様の御社殿建設への関心の高さを認識させていただきました。つきましては、近年に御社殿を造営もしくは、大改修された神社の宮司様、関係者の皆様、また、崇敬会や奉賛会を設立された寺社の総代様、関係御各位にご意見を仰ぎ、実状に適合する方法としては、御社殿建設準備会と崇敬会設立とを併合して推進する形式が自然体ではないかという結論にいたしました。早速、宮司が、特に今宮神社と縁深い、神道界、仏教界の重鎮の先生を訪問させていただきました、一連の計画にご賛同たまわり、発起人就任を快諾していただいております。

また、「研究会」「鍊成会」等、皆様の信仰の厚き心に支えられ、十九年度予定行事を無事に終了させていただきました。紙面をお借りして御礼申し上げます。

(西澤記)

小山市

高見良平

小山市

高見キヌ子

鴻巣市

白石健一

「回帰水推進者」

090-7845-8632

久喜市

川合洋子

(有)東村山電気

谷尻島子

042-394-1200

田丸 秀樹

とよみ

江戸川講

代表 稲生喜久子

久喜グループ

世話人 滝沢陽子

遠藤グループ

世話人 遠藤知江子

(有)日本総合電研

代表取締役 高柳 廣

〒360-0012 埼玉県熊谷市上之郷1-1001-11  
TEL048(42)(42)(42) FAX048(42)(42) 0885(42)(42)

良い品をより安く売る店

お客様に損はさせません。

一度見に来て下さいね。

小島人形店

行田市棚田町一-八-八

☎048-553-2833  
☎048-553-2833

謹賀新年

今宮神社職員一同

平成二十年一月一日

発行 今宮神社崇敬会(仮称)

事務局担当 西沢

会報紙発行委員会(仮称)

編集担当 菅野

〒368-0043

埼玉県秩父市中町十六-10

電話 0494(22)3386

FAX 0494(22)3331

http://homepage2.nifty.com/imamiya/

又は「今宮神社」で検索して下さい。